

KIRAMEKI

vol. 32 October 2012

社団法人 北海道空調衛生工事業協会

<http://www.doukuei.or.jp>



第16回全道会議（北見市）

〈特集〉伊達市総合体育館 あかつき

蝦夷みだら－道北空衛協会－

参線の野帖（5）



北海道工業大学 新体育館 〈HIT ARENA〉

第16回全道会議

はじめに

北海道空調衛生工事業協会の第十六回全道会議は、全道から約100名の会員が参加して平成24年8月24日（金）北見市ベルクラシックホテルで開催しました。

会議では、「ご来賓の北見市長小谷毎彦様に」祝辞をいただいた後、意見交換会に続き、北海道建設部建築局建築整備課の設備・環境担当課長有澤貴博様から「平成24年度當緒行政について」今年度の重点的な取り組みを、機械設備グループ主幹西田正司様からは「當緒工事積算基準の改正等について」大変わかりやすくお話していただきました。



北見市長 小谷 毎彦様

意見交換会の概要

会員からの事例発表を紹介します。なお、提案内容の詳細、資料はHP「会員専用」に掲載しています。

本業強化のための提案営業の取組み

帯広空調衛生工事業協会 西藤 博行

当社では、「受身営業から提案営業へ」を合言葉に、お客様に様々な提案を行い、仕事を作っていくことに全社で取り組んでいます。今回は、地中熱ヒートポンプシステムの提案事例を紹介する。提案は17年経過した施設について、現状システムでの更新と地熱ヒートポンプ方式とを比較したもの。

地熱ヒートポンプの建設費は、860万円（補助採択時2800万円）高いが、運転費が、640万円安くなることが試算された。このため本提案は、現在お客様サイドで予算計上中となっている。弊社のような中小企業会員様に少しでも参考にしていただきたい。

1 宴会場「アクア・ベール」運営事業 釧根空調衛生工事業協会 小坂 典行

新規事業への取り組み

釧根空調衛生工事業協会 小坂 典行

平成14年太平洋炭鉱閉山に伴い太平洋グループから独立し、以来、自分たちの会社は自分たちで守り、発展させていかなければならぬという強い思いがあった。市内企業から、宴会場「アクア・ベール」を売却する話があり、財務内容や損益状況を分析したところ、事業として成り立つ要素が強く、今後伸びると判断し、新分野への進出を決めた。建設業で培ったコスト管理や顧客管理、営業基盤等のノウハウを活用することで、調理品質と接客サービスの見直しを行い、ホームページで常に新しい情報を発信し顧客拡大に努めている。また、お客様に喜んでもらつことを社員のモチベーションにつなげ、釧路の中心街に「憩いの場」として再び賑わいを取り戻せるよう取り組んでいく。

2 LED事業

北海道の節電需要に対応するためLED照明の開発・販売事業に参入し、中国企業と共同開発したLEDランプを発売している。円高メリットを生かし、現地メーカーに直接製造依頼することで他社製品の1/2の導入費用を実現した。宴会場「アクア・ベール」の照明の6割をLED化し、消費電力を20パーセント削減した。

建設業における社会貢献事業の正論 函館空調衛生工事業協会 斎藤 秀司

当協会は「旧万字線をよくする会」の植樹祭に毎年参加している。万字地区は住民150名余りの限界集落になつており、少年団の子供達が植樹に来て地域の人々と触れ合ふ、桜の森を作ることがこの地域にとって夢のある事業となつていていることを伺い、この植樹祭に関わられた事に大変満足している。

地方自治体の財政難により、光の当たっていないところへ建設業が持っている人・物・力を使い日頃のお返しをする。今、行政と市民がともに知恵と力を出し合って街づくりをしようという「協働の街づくり」の考え方があまっている。私たち建設業こそもっと市民にアピールして、街づくりに参画すべきと考える。様々なボランティア活動、指定管理者、PFー等、我々の関わる「新しい公共」が目の前にある。

老朽配管更正装置の提案 函館空調衛生工事業協会 斎藤 秀司

費用面から配管更新に踏み切れないお客様には配管更生装置の提案を行っている。弊社は、近隣別荘地の水道施設のメンテナンスを行っており以前から経年劣化による漏水、赤水が問題となっていた。当初は配管更新で計画していたが、多額の費用がかかるため施設管理者様から導入実績がある配管更生装置を紹介いただいた。メーカーと打合わせ効果が見込めるとの判断で設置工事を行い、設置後に効果を確認した。施設管理者様はクレーム対応ができ、費用も抑えられたと一安心されていた。この配管更生装置は国土交通省の新技術活用システム（NETS）に登録されている。配管更新を検討しているお客様に一つの選択肢として提案することで他の仕事に繋がることを期待している。

北海道幹部からの「講話 平成24年度當緒行政について（要旨）

未曾有の大災害である「東日本大震災」の発生から1年6ヶ月を迎えるとしており、復興・復旧が思うように進まず、原子力発電所の運転停止による節電等の影響や、金融情勢も回復の兆しが無く、雇用面でも、昨年度の道内高校卒業者の就職内定率が70・5%にとどまるなど、本道の社会・経済は



北海道幹部からの「講話 平成24年度當緒行政について（要旨）

未曾有の大災害である「東日本大震災」の発生から1年6ヶ月を迎えるとしており、復興・復旧が思うように進まず、原子力発電所の運転停止による節電等の影響や、金融情勢も回復の兆しが無く、雇用面でも、昨年度の道内高校卒業者の就職内定率が70・5%にとどまるなど、本道の社会・経済は



深刻な状況にあります。

このようなか、平成24年度建築局の発注予定工事は、100億円を下回る状況であります。しかし短中期的には本庁舎の耐震改修、札幌医科大学の建替えや視覚障害教育センターの新設など来年度からは事業量の増加が見込まれています。

建築局では、平成13年度に「時の経過とともに価値を増す公共建築物の整備」を基本理念とし、理念を達成するための目標として執行方針を定め、この方針に基づき毎年度の執行計画を策定しております。本日は、平成24年度の執行計画の中から重点的な取り組みを3点ご紹介させていただきます。1点目は、環境及び長寿命化に配慮した公共建築物の整備についてであります。温室効果ガス削減を始めとする環境負荷低減の取組については、適正な施設整備や保全により、道有施設の企画段階から解体までのライフサイクルを通じて進めることができます。重要であり、環境負荷を低減するには、新築時の対策はもとより、既存施設のエネルギー消費等の環境負荷について適切に把握し、必要な修繕を計画的に進めて施設を良好な状態に保つとともに、当該施設の運用管理を適正化することが必要となります。本年3月に策定した「公共建築物ECO整備推進方針」に基づき、より一層の温室効果ガスの排出削減及び再生可能エネルギーの利用促進への積極的な取り組みを行うこととしています。2点目は公共建築物の品質の確保と建設業の健全な発展についてであります。透明性・公平性の高い入札契約を行うため、工事情報の適切な提供及び一般競争入札を引き続き行うとともに、「常

緒工事における総合評価方式の適用について」を一部改正し、公共工事の品質確保に取り組んでまいります。北海道建設産業支援プランに基づく、優秀業者への表彰や関係団体との意見交換会などについても引き続き実施し、受注者が抱える課題の解決や経営の効率化に寄与していきます。3点目は「營繕技術力の向上と市町村支援への取り組み」についてであります。設計、工事監理を行うためには、多くの技術、知識、経験が必要となります。特に營繕行政に初めて関わる職員や経験の浅い職員においては、設計業務の進め方や工事監督の対応において判断や指示の遅れなどによって、良質な施設づくりに影響が生じることが懸念されます。また、公共建築物の整備にあたっての基礎的な技術を職員一人一人が習得できるよう、建築局技術職員の人材の育成に努め、技術力の向上を図ります。市町村支援については、これまでも營繕工事積算標準単価表や積算基準等の提供及び会議・研修会等の開催を通して市町村職員の技術力向上に努めてきたところであり、營繕関係事務の支援をさうに積極的に行っていきます。道民の皆様が安心して快適に過ごせる安全で環境にやさしい建物を造ると同時に、地域や業界の更なる発展が、私どもと皆様方が共通の願いであり、快適で安全な住環境・都市環境・地球環境の形成に貢献するという使命を担う貴協会が、その役割を果たされることを期待します。

講演会
建築局機械設備グループ西田主幹のご講話は紙面の都合上HPに掲載させていただきました。

北一食品株式会社 前田 康仁様

道空衛 新入社員研修会

平成24年5月22日、2012年度新入社員研修会が北海道設備会館で開かれ、8社14人の新入社員が参加し、社会人としての自覚と資質向上を目指し、研修に取組みました。

●池田暖房工業㈱ 三田村 拓斗

今回の新入社員研修を受講させていただき、普段上司や取引先と話す時に、自分がどれだけ何も考えずに話していたか気付かされました。

私は今年で社会人2年目になりますが、新入社員とビジネスマナー やクレジットカード等について学んだ際、自分も同じレベルなんだ と感じました。現場に出て打合わせや、職人と話す事で、コミュニケーション力や、相手の様子や状況を判断して打合わせを行ったりする力は1年前よりついたと思いましたが、一番重要な言葉使いやマナーが全然出来ていない事を研修会で学べた事は自分にとって、また、社会人としてとてもプラスになりました。

研修の中には、働く事について、どういった心構えで仕事をすれば楽しく働けるようになるのか、という議題があり、自分は生活のため、お金のためと思っていましたが、少し見方を変えるだけで仕事に対する意識がガラッと変わりました。それは、自分の行っている事が、社会にいろいろな形で貢献しているという事を知る事ができたからです。

今工事している建物がこれからたくさんの人に利用されたり、そこに住まわれる人もたくさんいて、その人たちが自分が働くことによって少しでも幸福を感じる事ができれば、自分も達成感や次また頑張ろうという意欲につながってくると思います。そして、それが次のステップアップにつながったり、良い仕事を行う事につながってゆくのだと感じました。

お金はずっと自分に密接に関係していくもので、トラブル等もお金がかかる事が多いと思います。この研修でクレジットについてや消費者相談センターについて学べたのは、自分の身を守るという意味でとても重要な事だと思います。今は直接関係がなくても、今後事前に身を守るためにには研修で学んだ事が活かされると思います。

研修会全体を通して、自分が社会人として足りない物や、これから働く際にどのような意識もって働くのかを学ばせてもらえた、とても充実した研修会となりました。

前田社長は、昭和61年に「たこ焼き大将」事業本部を設立し、3年間で20店舗を出店するまで成長させました。しかし、一方で社員の入退社サイクルが短く、仕事を通じて人材が育たないため、経営のあり方を見直す決断をしました。「会社は何のためにあるのか」を深く考え、「お客様の満足を喜び」とし、仕事を通じ働く人の物心の豊かさを追求することにより地域社会に貢献する」という経営理念を打ち立てます。この経営理念のもと、平成元年に「回転寿司トリトント」を北見市に出店、現在は道内主要都市に12店と東京スカイツリー・東京ソラマチ店を出店するほか、飲食店を広く営業展開し、安全・安心な食材と徹底した接客サービスで業績を伸ばし続けています。

経営理念を追求するためには企業の成長が不可欠であり、成長のための3要素として、「組織づくり、ビジネスモデル、マーケティング」の3つの柱を挙げ、「お客様を兼ねてオホーツク支部小泉支部長の乾杯で歓談に入りました。また、機械設備グループ主幹西田正司様、北一食品株式会社代表取締役前田康仁様にもご出席を賜り懇親会にお開きとなりました。

来賓の北見市長小谷每彦様代理として都市建設部長井南芳男様、設備・環境担当課長有澤貴博様にご挨拶をいただき、歓迎挨拶を兼ねてオホーツク支部小泉支部長の乾杯で歓談に入りました。また、機械設備グループ主幹西田正司様、北一食品株式会社代表取締役前田康仁様にもご出席を賜り懇親会にお開きとなりました。

懇親会

に喜んでもらう」というベクトルを共有することが重要であると講演を締められました。講演終了後、子供たちに安心安全な食料を提供したいという思いから、自ら設立した農業法人による食と農業の資源循環システムの取組みをご紹介いただきました。

伊達市総合体育館 あかつき

株式会社 山下設計 北海道支社 設計監理部 部長 海藤 裕司
株式会社 管設計企画 専務取締役 山田 正巳



伊達市は北海道の南西部に位置し、函館市と札幌市のほぼ中間にあり、南は噴火湾（内浦湾）に面し、東は工業都市室蘭市、いで湯の里登別市、西と北は支笏洞爺湖国立公園ゾーン内にある洞爺湖町と壮瞥町に隣接している。さらに、大滝区は壮瞥町をはさんでの飛び地となり、札幌市、千歳市、喜茂別町、留寿都村、白老町と隣接している。

人口はおよそ3万7千人の小さなまちに350人を超える知的障がいを持つ方が一般市民と共に暮らしており、そのうち160人以上が市内60を超える事業所で働いている。障がいのある人たちが安心して暮らせる支援システムと、何よりも温かく受け入れ包み込む市民の心と理解のあるまちである。

施設建設計画と背景

伊達市の総合運動公園構想は、文化センター「だて歴史の杜カルチャーセンター」の建設とともに市民要望が非常に高く、1984年に伊達IC付近を計画地として室蘭圏緑のマスター・プランに位置づけ、第4次伊達市総合計画において計画したが、文化センター建設を最優先としたことから、第5次総合計画で引き続き検討することとなつた。

1991年度には、福祉の街づくりモデル事業の指定を受けた、「プライム・ヘルシータウン基本計画」の中で、ヘルシースポーツゾーンとして運動公園を位置づけ、その後2000年の有珠山噴火を教訓として、災害時には広域防災公園、平常時にはスポーツ公園として活用できる防災公園として道立による整備を目指し、2002年から伊達市は北海道に要望してきた。しかし、北海道の厳しい財政事情では道立公園としての早期実現は難しく、一方、現体育館の老朽具合からみて早急に建て替える必要があるとの判断から、体育館の建設位置も含め、今まで構想していた総合運動公園の整備について再検討することとし、広く市民や専門的見地からの意見を聞くため、2007年3月にスポーツ振興審議会や連合自治会協議会など市民代表からなる総合運動公園検討会議が設置された。

検討会議は、市民団体の意見を聴取する一方、先進地視察を実施するなど計9回の会議を開催し、



メインアリーナ南東面



1階 廊下



1階 廊下



ニュースポーツコーナー



屋上階 北東面



2008年1月に提言書として検討の結果をまとめた。

この提言内容を踏まえ、総合運動公園においては、平常時は緑につつまれた市民の憩いと文化・スポーツ活動による交流の場として、また災害時には住民の避難・救援活動の拠点として機能する公園づくりを目指し、快適で豊かな生活文化を育むとともに、安心して住めるまちづくりの実現に資することを基本コンセプトとし、2008年度に公募型プロポーザル方式により基本設計を作成、2009年度に実施設計、2010年度から2011年度の2年間で建設工事を行い、2012年4月に「伊達市総合体育館あかつき」が開設された。なお、「あかつき」の愛称は市民公募により決定した。「あかつき」は、夜が明けようとする時で新たな希望に満ちあふれ力がみなぎる若さの象徴、若さ・希望・力は私たちが人生において持ち続けたいものという思いが込められている。また、隣接する「だて歴史の杜カルチャーセンター」の愛称「あけぼの」との調和も考えられたものである。

施設の概要および特徴

建物は、防災公園の中に位置し、既存のカルチャーセンターの北側に建物の外壁ラインを併せて配置した。公園側に「ミニニケーションロード」を形成しカルチャーセンターと公園とのつながりを持たせ、それと平行して建物内にも交流、活動、休息の場となる「ミニニケーションモール」を形成する計画とした。

施設は鉄筋コンクリート造地上2階建て延床面積が740.9m²、「市民の健康の維持・増進に努め、地域に根ざした質の高い体育施設を目指す」を基本コンセプトに、生涯スポーツの活動拠点として多様な活用が図れる健康増進施設である。また、防災機能を有した施設として建設されていることから、災害用備蓄庫や避難者のためトイレが多く設置されているのが特徴となっている。

1階はメインアリーナ（バスケットコート2面）、サブアリーナ（バスケットコート1面）があり、全道規模の大企画などが十分に開催可能で、多目的室は可動間仕切りによって3室通しての利用ができ、軽スポーツ活動や健康体操、エアロビクスなど多種多様な利用を想定した構造となっている。その他、1階にはシャワー付き更衣室、児童コーナー、放送室、広々とした休憩ラウンジがある。

2階は、11月200mのランニングコースと子どもから中高年までの幅広い年代層が気軽に楽しめる「コースボーソルコーナー」、観覧用固定席604席と車いす用スペースが24席設けられている。駐車場は一般66台、身障者10台の76台分がある。また、施設の暖房はペレットボイラによる温水暖房方式で、伊達市の豊かな森林資源を活用した木質ペレットを使い、再生可能エネルギーを取り入れた地球環境にやさしい施設となっている。

2013年度には体育館に隣接して新プールが建設され、施設が健康維持・増進基地として完成する。

「これからの中高齢化社会における中高年者や障がい者へ配慮した施設づくりを心掛け、誰もが利用しやすい施設を目指した。車いす対応の観覧席、更衣室、シャワースペース、エレベーターはもとより、特に特徴的なのは、視覚的な試みとしてカラーユーバーサルデザイン（COLOR・Color Universal Design）の手法を取り入れたことである。サイ



1 階 热源機械室

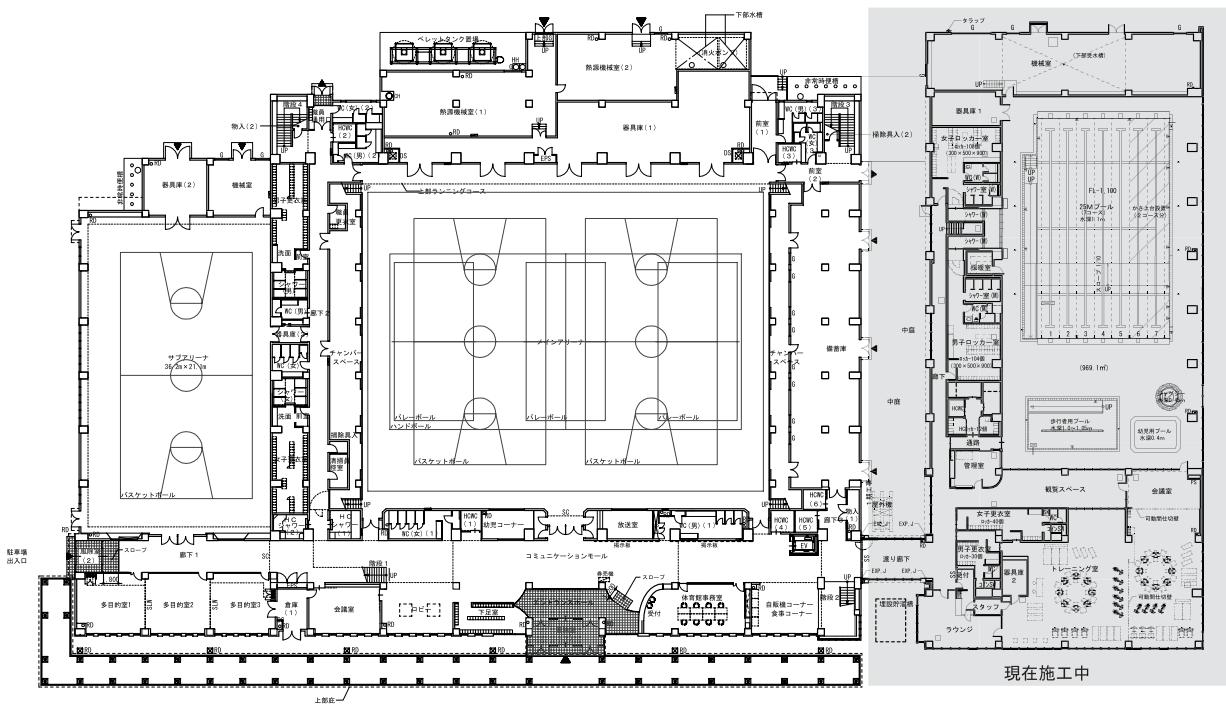
- ペレットボイラで作られる温水を、熱交換器を介して温水とお湯を二次側に供給するポンプを中心とした熱源機器が集中配置されている。他に、給水、消火等の設備機器が配置されている。



アリーナ 床暖房配管敷設工事

- 面積が広く天井高も高い大空間を効率よく温める暖房システムであるとともに、災害時の避難生活に配慮して床暖房を選定。●温水による感度のよい暖房と、スポーツに適した弱めの暖房をコントロールできることとも、ゴムチップを利用した弾力性のあるフローリングの床がスポーツに適している。

1階平面図



「蝦夷みんたら」(みんたら…アイヌ語で「庭」の意味)は直訳すると「北海道の庭」となります。道空衛の各支部の活動報告から読者の皆様へ情報発信を行っていこう！皆さんに「KIRAMEKI」の紙面を活用してもらおう！との思いから出来上がりました。

今回は第3回目となります。「各空衛みんたら」・「情熱みんたら」・「タウンみんたら」の3点に焦点を合わせて作成しました。

- ①「各空衛みんたら」：各支部の活動報告
- ②「情熱みんたら」：道北空衛の支部ごとで情熱を持って取り組んでいるボランティア活動の紹介
- ③「タウンみんたら」：各支部からの発信情報をジャンルを問わず掲載

「みんたら」というアイヌ語の発音に皆さんに見てもらいたいとの思いを込めて名付けました。

今回は、上川・留萌・宗谷地域を、読者のみなさんに知ってもらいたいとの思いから取り上げることとしました。

蝦夷みんたら

道北空衛 みんたら

道北空調衛生工事業協会 (略称 道北空衛) 事業活動

平成23年度 活動状況

道北空衛各支部の分離発注推進活動

実施日	概要	実施日	概要
4月5日	留萌支部訪問先－留萌市役所	11月2～25日	上川支部訪問先－上川総合振興局、旭川管理部、上川教育局、上川管内、各市町村
9月	稚内支部訪問先－稚内市役所		

旭川空衛協会の活動

実施日	概要	委員会
7月11日	旭川市管工事業共同組合との合同安全大会の開催	労働・安全
6月11日	パークゴルフ大会の開催	厚生・経営
6月14日	旭川工業高校生徒インターフィップ受入 電子機械科システムコース3年生の社会実習の実施	労働・安全
7月12日	ボランティア活動、旭川市有施設の暖房、衛生設備等の点検、修理の実施	厚生・経営
7月29,30日	1級管工事施工管理技士受験準備講習会の実施	技術
8月4日	旭川市 機械、電気設備工事技術研修会の開催	技術
10月11月	旭川市発注工事 安全パトロールの実施	労働・安全

旭川空衛協会

ボランティア活動

旭川空調衛生工事業協会は、社会に貢献する目的の一環として、旭川市所有施設の暖房・衛生など機械設備の点検、修理を実施しています。



平成23年度の実施状況

(実施日：7月12日、旭川市神楽岡地区センター)



稚内市（わっかないし）は
日本最北端に位置し、最北の駅である
『稚内駅』、利尻・礼文島やサハリンへの
フェリー航路がある宗谷総合振興局所在地で、
宗谷管内の中心都市です。

稚内市では、その地理的条件を生かし、水産・酪農・観光業が盛んです。

主な名所としては、最果ての宗谷岬、北海道遺産である宗谷丘陵や北防波堤ドーム、利尻礼文サロベツ国立公園、稚内公園などがあります。

稚内山野草同好会の活動

山野草の好きな稚内市民が平成19年度にNPO法人稚内山野草同好会を結成し、高山植物や山野草を植える活動に取り組んでおり、現在では稚内公園の開基百年記念塔周辺に約350種3000株が植えられています。

この場所は、宗谷湾と稚内市街を一望でき、サハリンの青い島影のロケーションが素晴らしいところです。



植えられている花々（一部）



レブンウスユキソウ
花の時期
6月下旬～8月初旬
礼文島の固有種で、
白い綿毛に包まれています。



レブンコザクラ
花の時期
6月下旬～7月初旬
礼文の固有種で、写真のようにたわわに花をつけます。



キリシマシャクナゲ
花の時期
6月下旬～7月初旬



エゾウサギギク
花の時期
6月～7月下旬
和名は、葉の形がウサギの耳を思わせることに由来します。

買い物みんたら

でかいとにぎわいの交叉する街

タウン
みんたら

旭川市は明治31年旭川駅開業以来、宗谷本線・函館本線・富良野線・石北本線すべての列車が停車する道北の中心都市として発展してきました。

駅前再開発事業の一環として改築された駅は平成23年11月に第4代旭川駅としてグランドオープンしました。シンプルで斬新なデザインの新駅舎は、乗降する人々の思いを交差させ、21世紀も集合離散の場となっていくことでしょう。

昭和40年に当時の五十嵐市長が、旭川市の長期計画の中で平和通（旧名称）を恒久的歩行者天国化するという構想を発表し、昭和47年6月に、全国第1号の買い物公園が誕生しました。以来旭川駅と共に旭川市の中心市街地として多くの市民に愛され発展、変遷を遂げてきました。



旭川駅



買い物公園

<http://www.kaimonokouen.com/>



道北空衛・上川支部（富良野地区）

観光といいやのみんたら

まるごと富良野

富良野地方は、地理的にほぼ北海道の中心部にあり、上川総合振興局の南に位置します。ラベンダーに代表される観光や、お米、タマネギ、スイカ、メロンなどの農業が基幹産業になっています。

大雪山国立公園の雄大な十勝岳連邦と靈峰芦別岳を背にし、富良野市から中富良野、上富良野、美瑛へと続く国道237号線は、四季おりおりの花々やラベンダーに彩られた花畠が続き、演芸を究める演劇工場、美術館、心も体も癒される温泉などが数多く点在します。

シーニックバイウェイ北海道の大雪・富良野ルートにも指定され、観光的みどころもたくさんあります。まるごと富良野、ぜひ体験してください。



吹上温泉保養センター 白銀荘は、大雪山国立公園十勝岳連峰の中腹にあり、大自然に囲まれた静かな温泉地です。春は残雪が美しく、夏は登山、冬は山岳スキーの基地として多くの皆様に愛され、親しまれています。

●入館料：大人600円、中・高校生400円、小学生200円
<http://www.navi-kita.net/shisetsu/hakugin/>



観光スポットで有名な富田ファームに隣接する素晴らしいロケーションに、英国のチャーチフラワーショーで3年連続ゴールドメダルを受賞の世界一のガーデナー石原和幸さんが手がける「森のガーデン美術館」がオープンしました。

<http://www.furano-garden.net/>

フラン・マルシェとは富良野市中心市街地活性化基本計画のコンセプト「ルーパン・フラン」構想にもとづいて計画された活性化施設の名称です。フラン・マルシェは3棟からなり、ファーマーズマーケット オガール、スイーツカフェ サポール、富良野物産センター アルジャン、ティクアウトショップ フラディッシュの4つのゾーンがあります。



<http://www.furano.ne.jp/marche/>

富良野演劇工場は平成12年10月にオープンした、全国初の公設民営劇場です。全国認証第一号の民間非営利法人「ふらの演劇工房」がボランティア組織で運営を受託管理しています。建設にあたっては富良野在住の作家倉本聰氏が深く関与しており、建造物としてのユニークさもさることながら、作る側のニーズを十分考慮した劇空間としても大変ユニークな存在となっています。



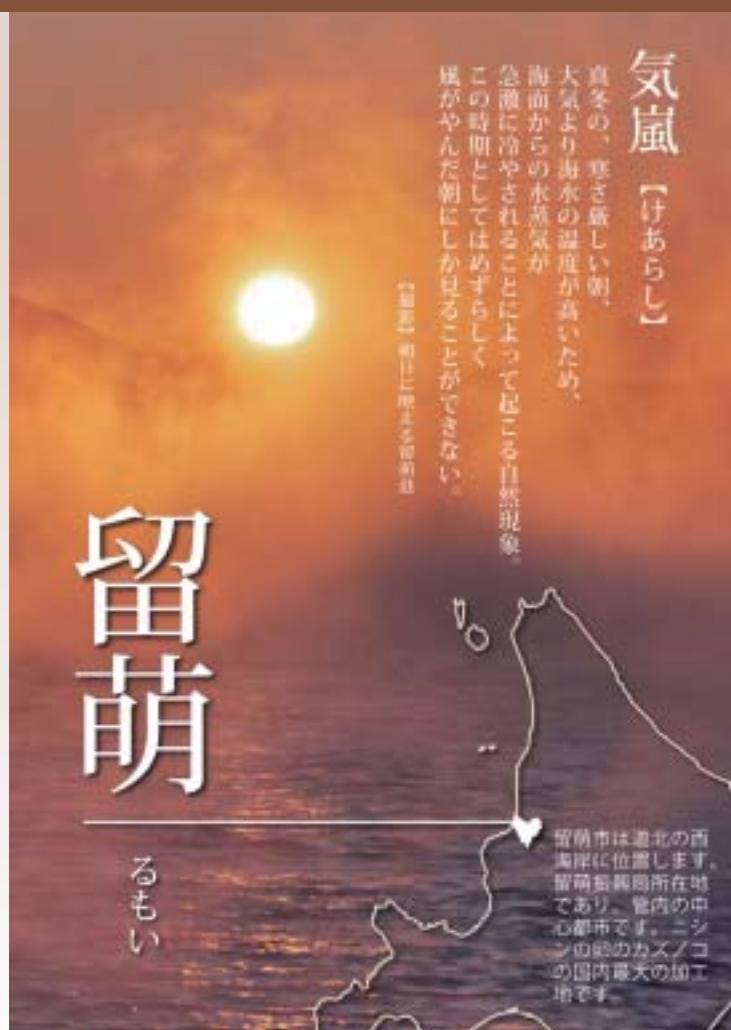
<http://www.furano.ne.jp/engeki/>

留萌きてみてみんたら

冬の留萌

日本海を渡る大陸からの強烈な北風は、波を巻き込み泡となって海岸を舞う「波の花」を作り出し、穏やかなだが深呼吸するとむせ返るほどに凍てつく朝には幻想的な「気嵐」という自然の芸術を見てくれる。

留萌の歴史はニシンの歴史。かつて「千石場所」と称されたこの沿岸のニシン漁場は、昭和30年代を前後して衰退したが、カズノコをはじめとする水産加工は今でも盛んだ。別名「春告魚」と呼ばれるニシン。寒さが和らぐ春になると、漁師達は今もこの海でニシン網を刺す。

冬の味覚
留萌の寿司

活のよいネタと南るもい米のシャリ。るもいスタイルの寿司なら「留萌鮨商組合」がお勧め！

【加盟店】丸喜・荒磯鮨・たんぽぽ・蛇の目・富丸・三福・忠・なぎさ寿司
<http://www.rumoisushi.com/>

冬のイベント

うまいよ！るもい市

日時：10月14日
12月16日

場所：留萌地方卸売市場

南るもい米の新米や、お歳暮にぴったりな海産物・加工品が揃う。名物浜焼きコーナーも！

地域情報サイト るもいfan
<http://rumoifan.net/>

「地域情報サイトるもいfanは留萌管内の人・食・観光の情報を発信しています」

[るもいfan](#)

[検索](#)

道北空衛・上川支部（名寄・士別地区）



星空みんたら～豊かな自然の中で『星と音楽の体験を』～

名寄市は、上川総合振興局の北部に位置する中核都市です。素晴らしい星空環境を利用した天文台が2010年に北海道立サンピラーパーク内に、「なよろ市立天文台きたすばる」としてオープンしました。

天体観測用望遠鏡は、北海道大学が製作した反射鏡の直径が1.6mと国内最大級のビリカ望遠鏡、名寄市が作製した鏡径50cmの望遠鏡などが設置され、晴天時には、星雲や星団等を見ることができ、多くの天文ファンの期待に応えています。

また、天文台施設には、100人の収容が可能な多目的ホールがあり、豊かな自然の中で星と音楽のライブが楽しめます。既に国内有数のミュージシャンからライブ依頼が多く来ていて、音楽を楽しみ星を見てもらう等、生の体験と癒しの空間の創造で神秘の世界を体験できる施設です。名寄の星空は「宇宙の窓」が開いている場所、そんな宝の窓を広げていきたいと思います。

旭川方面から北へ名寄市の入口、風連町には、大福もちで人気の道の駅があります。そこから天文台は、もう一息です。



北の天外天（宇宙）に向けられたビリカ望遠鏡（設置者：北海道大学）

なよろ市立天文台きたすばる

住所：名寄市字日進157-1
電話：01654-2-3956 FAX：01654-2-0267
e-mail kitasubaru@nayoro-star.jp

天文台では、塩田台長さんや佐野係長、職員の方が忙しく働いています。佐野係長は、北大の大学院理学研究院の研究員もあります。もし佐野係長の手があいていたら、宇宙の不思議を聞くチャンスがあると思います。例えば、太陽系の始まりと終焉。ETとドレイク方程式、アインシュタインの重力と時空の話、パラレルワールドやブレーンワールドなど、なんでも親切に教えてくれます。

琴線の野帖（五）

琴線の野帖

筆：梁川 城太郎

設費合計1万387両を島は長官を通さず、に独断専行で支出してしまう。その責任を取らされて東京へ戻されてしまう。島の後始末は岩村判官の役目となり、着工した建物の代金支払で1870年は過ごし、札幌の町は不景気に見舞われる。

この頃、札幌商業者の資金難解消の「信睦会」創設や浄土宗新善光寺の創建などで大きな貢献をした人物に水原寅蔵がいる。

1869年の明治新政府以降、1873年（明治6年）10月に開拓史本府舎が完成するまでには、北海道の建設の歴史が急速に増えてきた。それに伴い設備工事というのもも存在感が出て色々な文献等にも登場していく。本号では、北海道の開拓の歴史としてくる。本号では、北海道の開拓の歴史のなかで、設備工事業がどのような形で貢献してきたのかと、当時の先人の方々がどのような苦労をして明治の時代を渡つてきたのか、そして尽力された方々にはどのようないうな人物がいたのか、ノスタルジックな表現（当時の文献も折り混ぜながら）で紹介していく。

① 果樹園で貢献した水原寅蔵

島判官は豊平川の沖積地に壮大な計画を立てた。札幌本府本府敷地が四方545メートル。そ



水原寅蔵

現在の都市計画が現在の札幌の基礎となっている。しかし、この建

の前に長官邸、判官邸、学校、病院、農政、市政や司法の役所、武家屋敷、倉庫敷地を配置した。大通りの南方は商家地、円山は開拓守護神の社地とした。

旧幕府の大友亀太郎は豊平川伏流水から用水路を開拓する。これが有名な大友堀だ。その後、豊平川の札幌側渡し守の吉田茂八も島に雇われ1870年に大友堀に続き、南7条から北6条間の蛇行を直線化して吉田堀を開削、創成川の基礎となつた。寺尾秀次郎は1871年に創成川下流の篠路まで6kmの水堀を掘つて舟をひき寺尾堀となる。こうして、島の強引な、

札幌で最初にリンゴの栽培に取り組んだのが水原寅蔵だった。開拓史は187

9年）、現在の札幌市中央区南1条西4丁目に西洋風の家屋と石倉（写真2）を建築して、民間における住宅改良のさきがけとなつた。この家屋は、当時としては大変立派な家屋で、貴賓の宿泊處として使われた。松本

が去つた後は別の分野での事業に取り組むこととなる。



写真2 西洋風の家屋と石倉 南1西4



写真1 創成橋。奥が札幌本陣

② 開拓史庁舎建設

③ 北管協だよりに学ぶ

岩村判官は、中川源左衛門に「北海道開拓に付き、大工棟梁を申し付け」て1871年から建設の手配を申し渡す。今で言えば、開発局と道の建設関係工事を1社に特命するようなものだ。契約も責任施工の恩典を与える。

1871年（明治4年）に開拓史仮庁舎が北4条東1丁目に完成する。ここで、「北管協だより第3号」（昭和47年9月15日発行）のなかで北海道管工事工業協会畠尾恭宏理事（当時）が開拓史庁舎の関連記事を記録しているので紹介することにする。

東京から函館に、更に札幌へと開拓支所を移転してきたのは1871年（明治4年）のこと。急速、蒸気木挽所「水車機械所」

2年（明治5年）に開拓史顧問ケプロンの進言によりアメリカからリンゴの苗木を輸入し、開拓史本府構内に約20町歩の果樹園を開いた。水原は1876年（明治9年）、現在のススキノから中島公園一帯に大規模な果樹園を開設した。この果樹園は最初にできた民間果樹園で、その後、平岸や白石などでのリンゴ栽培に大きな影響を与えた。1881年（明治14年）には結実した水原果樹園のリンゴを明治天皇行幸の際に献上している。

1899年（明治32年）4月、82歳で生涯を終えたが、篠路村の早山清太郎、島松村の中山久藏と合わせて「開拓率先の三翁」と呼ばれ中島公園に顕彰碑がある。ちなみに札幌開拓に尽力した四翁とは、水原寅蔵、大岡助右衛門、石川正叟、対馬嘉三郎のこと。

2年（明治5年）に開拓史顧問ケプロンの進言によりアメリカからリンゴの苗木を輸入し、開拓史本府構内に約20町歩の果樹園を開いた。水原は1876年（明治9年）、現在のススキノから中島公園一帯に大規模な果樹園を開設した。この果樹園は最初に

等の官営工場を作り、又大工その他の職人を内地より連れてきて開拓史仮庁舎を先ず建設した。

写真3に見える屋上の櫓には太鼓がある。これは時刻を知らせるためのものだ。本庁舎建設の準備に入り「大工政吉」に請負させた。



写真3 開拓史仮庁舎北4東1



写真4 開拓史本庁舎
(明治6年10月完成)



写真5 赤煉瓦本庁舎
(明治21年完成)



写真6 焼失中の赤煉瓦本庁舎
(明治42年)

開拓史本庁舎が完成したのは1873年（明治6年）10月（写真4）で、当時は未だ広い原野だったところに毅然として建つた庁舎は誠に堂々として将来の北海道を象徴したものと言われた。設備のうち採暖にはロシア人「モルジン」という人に教えられ、壁付暖房（ファイヤープレス）を庁舎につけたものと見られる。然し乍ら給排水給湯等はその後も相当永い間、原始的な方法で用いられ、電気も明治24年頃まではついてなかつた。

一明治中期

このような立派な本庁舎も1879年（明治12年）1月には全焼してしまった。

（明治19年）起工、21年工成る。その考えをあぐれば、構内坪数1808坪本舎は煉瓦造り石板葺きにして総建坪550余坪、階上階下床下に各一条の廊下を通して25に区分し、3階と書庫有り、中央に8角塔を設く（これは28年に除く）。冬期に暖房をとるため、暖温器を設け機関2個を備え源管を装置せり。各室に分配する鉄尺は432坪7合7勺は復旧工事に当り新に増築せり。又、附属建物として便所渡廊下等なる便所は煉瓦造り平家39坪、本庁舎と仮庁舎間の三層建にして此建坪51坪9合1勺、内18坪7合7勺は復旧工事に当り新に増築せり。全部今回的新築に係るものとす。工費と請負者復旧工事其他に要した総工費は、28万3326円、内18万3516円66銭は本庁舎復旧工事にして、札幌区の篠原要次郎之を請負い、3万3686円80銭は暖房据付工事、請負者大坂村井季四郎（ダイダンの前身）。4893円20銭は暖房汽缶室及附属工事費にして請負者は札幌区菅沼幸太郎、1596円50銭は電灯工事費にして札幌水力電気株式会社外1名、請負外に雜費として2632円83銭5厘を要した。

一新築の暖房

本工事は最近の發見に係る「低圧真空式蒸気暖房」の装置にして、汽缶室にして札幌地下の暗渠内に敷設せる幹線の鉄管を通じて本府舎の地下室及仮庁舎階下の床下に置かれて、此處に減圧弁の作用に依り相当に減圧せられ低圧蒸気管を通じて各室内に装置する放熱器に送られ、自然に生じたる蒸溜水は放熱器より環水管を通じて真空ポンプの働きに依り汽缶室に設置せる「タンク」内の水は環水管ポンプに依り自動的に再び汽缶内に環水せしむるものにして、放熱器は長官室及びその左右の各室を「米国セクショナル型」を用い其他の各室は専ら經濟と実用を旨とし独立国「リップトパイプ」を用い、蒸溜水の出口には特に完全を期す為に米国製の「ベリバンクサーモフワヤ」を設置したるが、各室の温度は屋外の華氏0度以下は20度の極寒に於いて60度を保たしむべき計画に成るも、果して理想通り行くや否やは冬季実験上ならではいささか疑問なきに非ず。

（北海タイムス 明治45年7月1日号）
本庁舎その他の建坪、本庁舎は全部煉瓦の三層建にして此建坪51坪9合1勺、内18坪7合7勺は復旧工事に当り新に増築せり。又、附属建物として便所渡廊下等なる便所は煉瓦造り平家39坪、本庁舎と仮庁舎間の三層建にして此建坪51坪9合1勺、内18坪7合7勺は復旧工事に当り新に増築せり。全部今回的新築に係るものとす。工費と請負者復旧工事其他に要した総工費は、28万3326円、内18万3516円66銭は本庁舎復旧工事にして、札幌区の篠原要次郎之を請負い、3万3686円80銭は暖房据付工事、請負者大坂村井季四郎（ダイダンの前身）。4893円20銭は暖房汽缶室及附属工事費にして請負者は札幌区菅沼幸太郎、1596円50銭は電灯工事費にして札幌水力電気株式会社外1名、請負外に雜費として2632円83銭5厘を要した。

烟尾氏の「文献」は、今後も幾度かにわたり紹介していくことにする。

こうして、ロシア南下政策や諸外国からの侵略の脅威を避けるべく、確固たる日本の領土と主張するため北海道開拓はのろしを上げた。それと同時に、我設備業界も附属工事として北海道開拓に愚直に邁進していくのである。

瓦庁舎も焼失してしまった（写真6）。この時に丁度別館建築の予算が付いていたので、早速これの建設を計り札幌区篠原要次郎と契約し工事にかかりました。この建物は工期を45日も残して完成したということです。昭和20年に火災にあつて焼失した赤煉瓦本庁舎の復旧は明治43年に着工し44年11月に完成させた。（請負人：篠原、全面的に伊藤組が協力とある。）この工事に更めて暖房工事も復旧・・・その内容も大分近代的設備になつたようで、これも当時の新聞資料として残つてるので転載し紹介する。

（以上原文のまま）
家田技師の談話より
以上が、1972年（昭和47年）発刊の北管協だより3号で北海道管工事工業協会烟尾当時理事が取りまとめた設備工事の変遷である。昭和の、インターネットやパソコンも満足に無いこの時代に、ここまで写真や文献、新聞記事等を収集し、噛み碎いて万人に理解してもらえる構成まで出来るのは、余程の尽力をされたと容易に推測できる。眠っていたこの素晴らしい「文献」をこの21世紀に再びスポットライトをあてたいと感じた。



今回からスタートしました「きら eco」。現在地球環境は温暖化現象をはじめとして大きな危機に直面しています。さらに昨年発生した東日本大震災の影響による計画停電等、我々の生活においても「eco・省エネ」は切っても切り離せない事柄となっています。

本コーナーでは道内において新エネルギーや省エネ設備を導入した工事事例等を通じて、当設備業界の「eco」に向けた取り組みについてご紹介していきます。

北海道工業大学新体育館（HIT ARENA）の設備計画

北海道工業大学 空間創造学部 建築学科 魚住 昌広



HIT ARENA全景



新体育館プロジェクトの始動

北海道工業大学では、開学直後の昭和45年に建設した既存体育館の老朽化を受け、平成21年春から、新体育館の具体的な建設計画を開始した。

新体育館の基本計画・設計は、建築学科教授の佐藤孝をプロジェクトマネージャーとし、構造分野・環境工学分野の研究室教員および設計事務所を主宰する卒業生からなる「新体育館プロジェクト設計共同企業体」を組織して行った。

新体育館は、メイン・サブアリーナ、柔道・剣道それぞれの専用武道場、トレーニングルーム（マシンジム）、ロッカー・シャワー室といった「体育館」としての機能に加え、合宿もできるミーティング室、体育会系・文化系のクラブ部室も含めて、地上3階延床面積約5900m²の施設として平成24年2月に竣工し、同年4月から供用を開始した。



コンセプトは広場

ローマにあるナボナ広場は、古代ローマのドミニティアス競技場跡である。長い年月の内に教会建築やアパートに囲まれ、広場となった。広場に面したアパートの住人はペランダでコーヒーを飲み、花に水を遣りながら広場の大通芸や市場、イベントの光景を眺めている。この広場を囲むアパートの窓辺やバルコニーを本学の体育館計画に重ねるとアリーナを囲む文化系・体育系のクラブハウスのラウンジは、ロイヤルボックスである。また体育館に日常的な関わりを持ち得なかつた一般学生は、空中通路のバルコニーでアリーナを眺め、学生の「ミニユニケーション」を生む。

北海道の大学のキャンパスの春から秋にかけては、快適な気候であるが、冬になると外に出ることが少なくなる。ゆえに冬のキャンパスライフを楽しむためにもワインターガーデン（アトリウム）があることが望ましい。平成13年に竣工した本学講義棟は街路型アトリウムを内包し、今回の体育館は、広場型アトリウムでありアクティビティを誘発する。

環境への配慮

メインアリーナは、床面積約1600m²、天井高約13mの大空間である。冬になるとこの巨大な気温を温めることは負荷が大きすぎる。居住域のみを空

調することは合理的であるが、そのためには、上下温度差を小さくする熱環境的な安定性を必要とする。メインアリーナをクラブ部室や武道場などの別暖房系統の室用途群により囲いこむ広場型プランは、熱環境安定化のための建築計画である。

空調熱源としては地中熱ヒートポンプ（+ガス焚真空温水機）を採用し、アリーナの鋼製床組下部をチャンバーとして利用し、床面の輻射効果も期待した全空気式の空調方式としている。

ファサードデザインは、太陽光パネルを垂直壁に取り付け、着雪による発電障害を避け、さらに直接光に加えて雪の反射光の利用をねらった積雪地ならではの可能性を追求している。

西面のクラブハウスは、西陽の日陰をつくるセットバックした大窓と必要な量の小窓の調整配置にファードを生んだ。サブアリーナの深い庇の下ではストリートバスケットや自転車などを楽しんでいる。その深い庇は、南の日差しを外部床でバウンドさせカーテンウォールを通して入射させることで、自然光の導入による日射負荷の増加を抑えている。



実証フィールドとしてのキャンパス施設

HIT ARENAを実証フィールドとした自然エネルギー利用技術の実用性・信頼性・省エネルギーに関わる研究テーマ、検証対象設備は以下を予定している。

1 地中熱利用ヒートポンプ（GSHP）の冷暖房

熱源としての性能

地中熱利用ヒートポンプの熱源機器としての年間効率を求める、空調負荷に対する最適機器容量、効率的な運転方法、機器の信頼性、負荷変動に対する応答性について検討および実証する。また、地中熱交換器については、熱応答試験結果と実稼働状況での採熱量、近傍土壤温度の変動データより、適切な熱交換器の算定方法についても検証を行う。

2 アースチューブによる有効な地中採熱方法の検証と外気負荷削減効果

熱伝達を促進する手法および、周辺土壤の温度変動を熱流体解析ツールで解析することにより、有効な地中採熱方法について実証する。外気温度・地中温度変動と取入れ外気の予熱（冷）による温度変動

から施設換気負荷の通年エネルギー削減効果についても定量化を行う。

3 太陽光発電設備の降雪期を含む通年発電効率

壁面に垂直設置した太陽光発電パネルの積雪面からの反射による受光も含めた発電量の季節変動を求め、施設の電力負荷(変動)に対する適切な設備規模の設定を行うための基本データとする。

4 寒冷地における(温風)床暖房設備の有効性

アリーナ鋼製床組の空間を給気チャンバーとして利用した温風床暖房設備の床面放射と床吹出空調の双方による大空間暖房方式としての実証を行う。床暖房方式とすることで、居住域を効率的に空調することが可能となり、本データとする。



▲1F ロビーからメインアリーナを望む



メインアリーナ内観
ハイサイドライトからの採光膜天井

HIT ARENAの建築・設備概要

建築概要			
建設地	札幌市手稲区前田7条15丁目4-1		
敷地面積	130,195.41m ²		
建築面積	3,728.90m ²	延床面積	5,900.61m ²
最高高さ	16.340m 地上3階建	構造	RC造 一部SRC造、S造
工事期間	平成23年5月1日～平成24年2月29日		
基本計画・設計	北海道工業大学 新体育館プロジェクト設計共同企業体		
実施設計	清水建設株式会社 北海道支店 一級建築士事務所		
施工	清水建設株式会社 (機械設備施工:高砂熱学工業、電気設備施工:浅海電気)		
設備概要			
項目	対象室・系統	設備方式、機器仕様・能力等	
空調方式	メインアリーナ サブアリーナ	空調機による單一ダクト+VAV方式、給気鋼製床組内吹出、一部FCV併用	
	武道場(1,2階)	温水FCV+単独換気(一種)	
	監視室、ミーティングルーム、トレーニングルーム等	ガスヒートポンプマルチエアコン+全熱交換換気扇	
	クラブ部室	温水FCV+全熱交換換気扇	
熱源設備	地中熱利用ヒートポンプチラー(空調機系統)	加熱能力90kW・冷却能力98.6kW×1基 地中探熱管(85m×19本)	
	潜熱回収温水ヒーター	ガス焚 加熱能力581kW×2基	
	ガスヒートポンプマルチエアコン	加熱能力39.1kW・冷却能力58.3kW×1系統	
	地中熱利用ヒートポンプチラー(融雪系統)	加熱能力10kW×1基、地中探熱管(85m×2本)	
衛生設備	給水設備	札幌市水道水源、既設受水槽室へ加圧給水ポンプ設置、加圧給水方式	
	排水設備	札幌市下水道接続	
	給湯設備	マルチ給湯ガス給湯器(男女シャワー室各1系統)	
	消火設備	易操作性1号屋内消火栓	
	ガス設備	都市ガス引込、温水ヒーター、GHP、給湯器へ接続	
自動制御設備	中央監視設備	熱源回り制御、給気温度制御、ファン回転数制御、外気冷房判断、外気取入アースチューブ系統切替制御、ファンインターロック制御、凍結防止制御、給気風量制御(VAV制御)、ナイトページ制御操作・監視・計測・計量	

今後は、企業とのコラボレーションや産官学の協働の核となり、環境・エネルギー分野の人材の育成も含め、社会ニーズに適合する研究成果を公表していくことを考

えている。研究開発成果を公表していく。
エネルギー・分野の人材の育成も含め、社会ニーズに適合する研究開発成果を公表していくことを考

えている。今後は、企業とのコラボレーションや産官学の協働の核となり、環境・エネルギー分野の人材の育成も含め、社会ニーズに適合する研究開発成果を公表していく。
エネルギー・分野の人材の育成も含め、社会ニーズに適合する研究開発成果を公表していくことを考



「寒地環境エネルギーシステム研究所」の設立

北海道工業大学では、平成24年4月1日、

積雪寒冷地における、よりよい環境づくりと持続可能なエネルギー・システム構築に資する技術の開発と本学教育の発展に資することを目的に「寒地環境エネルギー・システム研究所」



1F エントランス コリドール

省エネルギー効果を期待できる。また給気ダクトスベースを要しないため階高を抑制でき、建設コストの削減も同時に図ることができる。
アリーナのルーフには、ハイサイドライトが設置されており、空調停止時間(夜間)でアリーナ内温度が外気温度より高い場合は、自然換気を行つたために窓を開放する制御を行つていている。夜間の蓄冷(ナイトページ)効果は、北海道の涼涼な気候に適した技術であり、実測評価のみでなく建築開口(形状・面積・方位等)と給気(冷熱)量の関係を分析する。ハイサイドライトから取り入れられた自然光は、天井材として用いた膜天井を透過・拡散し、全面的に採用したLED照明とともに、照明用電力量の削減も図つてている。

本研究所は、機械・電気・建築・土木など、学内関連学科の領域を超えて、「積雪寒冷地における環境エネルギー・システムの確立」を研究の軸として、風力・太陽光・地熱等の再生可能エネルギーを活用したエネルギーの利用、建築物の省エネルギー化について最先端の研究を行い、持続可能性(サステナビリティ)を設立した。

の高い社会の構築に寄与することを目指す。また、学外企業・機関等との連携を強化し、研究者の受け入れや応用研究・実証研究・製品テスト等の受託も行う予定である。

本学では既に関連学部・学科で積雪寒冷地における「電力エネルギー有効利用システムの実証研究」、「太陽電池利用効率向上に関する研究」、「地中熱ヒートポンプの実証研究」、「地熱利用換気システム利用技術に関する研究」「雪化建物の熱性能解析・評価」、「建築設備の省エネ化研究」、「高断熱・高気密化研究」、「地熱利用技術に関する研究」、「地熱ポンプの実証研究」、「地熱利用換気システムの性能評価」等について多くの実績をあげてきる。本研究所では、これまでの個々の要素技術を統合した総合的なエネルギー・システムの研究に加え、関連分野の研究を推進していく。

KIRAMEKI

vol. 32

広報委員会

●道空衛・札空衛

委員長

里中 雅幸（株興北暖房工業所）

担当理事

高清水 信彦

編集長

安井 和哉（株栗林商会）

副編集長

河村 憲一（東洋熱工業株）

委 員

鷺尾 太郎（株大氣社）

工藤 守彦（三建設機械工業株）

山田 力也（株昭和プラント）

池田 真士（池田暖房工業株）

大村 力（日本空調サービス株）

●道空衛

十勝圏担当

森 賢伸（森設備工業株）

釧根圏担当

菊地 美幸（太平洋設備株）

編集責任者

西川 清一（株ニシカワ産業）

印 刷

福島プリント株式会社

札幌市中央区南 9 条西16丁目

TEL 011 (561) 3737

道空衛広報誌「KIRAMEKI」を読んで
のご意見・ご感想をお寄せ下さい。
投稿もお待ちしております。

●送り先

〒060-0004

札幌市中央区北 4 条西19丁目

北海道設備会館内

TEL 011 (621) 4106

一般社団法人 北海道空調衛生工事業協会
広報委員会

きらめき

道空衛会員各社の“我が社の今一番きらめき、輝いている女性社員”を紹介して行く
☆きらめき☆・・・

Shining woman (道空衛会員名簿掲載 50音順)

第6回 札幌圏支部

恒完工業株式会社

総務部課長

福田 玲子さん



務経理を業務としています。協力業者への支払関連業務、銀行への振込等入出金に伴う伝票起票、現金管理、決算に伴う各種書類の作成、官庁工事の前払金申請。

その他、毎日の電話応対、備品補充、生活習慣病の健康診断申込み、年賀状作成、中元、歳暮管理等総務全般を受け持っています。

どんな事に気をつけて業務をしているか？



常の業務に於いては、ミスの無い業務の為に、確認を徹底させています。各担当者との打合わせを密にして変更等へも隨時対応出来るよう、書類作成もしています。

総務は雑務が主ですが、会社の裏方であり社員が仕事のし易い環境を作る事が重要と感じています。その為、会社の美化に努める事はもちろんの事、何処かで書類が止まっている等で支障が発生していないか等常に心配りを忘れないよう気を付けています。

また、急務にも対応する為に、会社全体が今どういう動きをしているのかを把握する様にしています。

休日の過ごし方は？ 趣味・特技はありますか？



オーキングをしたり、買い物へ行ったり、時々友人と食事に行きますが、家でパンを焼いたり、料理を作ってゆっくり過ごしています。数年前に病気で長期入院したため、今は身体のメンテナンスのため、無理をせずに過ごしています。

趣味は、洋服作りや編み物です。子供が小さい頃は随分作りましたが、最近はジーパンからエコバックを作りました。特技は特段ありません。



製葉書

本号では、「蝦夷みんたら」にて「道北空衛協会」をご紹介しました。
もう読んでいただけたと思いますが、上川・宗谷・留萌の各支部の方々が思い思い

に地元や自分たちの活動についてまとめさせていただき、とても興味深い紙面となったこ

とに感謝申し上げ、また、その中心となりわざわざ設備会館へ何度も足を運んでいただいた、上川

支部の副支部長・理事には本当にお世話になり、ありがとうございました。

今後も、各支部をご紹介していくので、その時には担当支部の皆さんのが協力をお願いいたします。

また、特に順番は決めていませんので「是非とも次は当支部を！」と言っていただければ優先してご紹介していきますので、お申し出お待ちしております。

「蝦夷みんたら」では、全ての支部を紹介していきます。時間はかかりますが必ず皆さんに回って行きますので、構想を練ってお待ちください。

さらに、今年は昨年の大震災による原発の停止から節電を余儀なくされ、我々設備業界にとっても大きな役割を果たす場面が考えられることから、本号より新企画「きらeco」と題し、道内の新エネルギーや低炭素等の省エネ(eco)に向けた建築設備に係わる取組事例を紹介していきます。

今回は「北海道工業大学」の事例でしたかいかがでしたでしょうか？

そうそう、先日ある副町長が壁に貼っていました言葉を紹介させてください。

一生懸命だと知恵が出る。 中途半端だと愚痴が出る。 いい加減だといい訳が出る。

あなたの言葉がわかりませんが、いい知恵を出すようにしたいのですね！

編集長